JMA　登山月報　第 520 号　平成 24 年 7月 15 日発行　　昭和 45 年 12 月 12 日第三種郵便物認可（毎月一回 15 日発行）

登山月報

第3回アジアンビーチゲームズ in 海陽 ……… 1
第 26 回リードジャパンカップ岐阜大会 ……… 2
平成 24 年度国際委員総会、
第 31 回海外登山遭難対策研究会報告 ……… 3
平成 23 年度氷雪技術研修会報告 …………… 4
2012 国際山岳年プラス 10 シンポジウム …… 5
第 44 回 Mountain World ……………………… 6
日本の山岳切手シリーズ⑨ …………………… 7
お国自慢の山⑦ ………………………………… 7
駐日ネパール大使昼食会 ……………………… 8
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 ………………… 8

第3回アジアンビーチゲームズ in 海陽 日本チームは5個のメダルを獲得

６月16日～22日、中国は青島（チンタオ）の隣町、海陽（ハイヤン）で開催されたアジアンビーチゲームズ。今回からクライミング競技が加わった。ビーチバレー、ビーチサッカーなどのビーチで行う競技、水上スキー、ドラゴンボートなどの海上で行うものが中心のこの大会だが、クライミング競技は海から少し離れた場所で通常の大会と同じように行われた。

日本からは７名が参加。日本チームとしては、世界トップの実力を持つ３名､女子ボルダーで野口啓代が、男子ボルダーで堀創が、男子リードで安間佐千が金メダルを獲得すると予想していた。さらに小林由佳、清水淳が銀、うまくいけば樋口純裕、安田あとりも銅メダル……と。しかし最終的には男子ボルダーを除き、すべてひとつ下の結果となってしまった。

男子ボルダーは清水、堀が圧倒的力を発揮。ファイナルでは４課題を清水がすべて一撃で優勝。２位となった堀も第１課題で２トライとなっただけ。３位のミン・ヒュンビンは２完登、という大差をつけての勝利であった。

女子ボルダーはもちろん韓国のキム・ジャインと野口の一騎打ちとなり、準決勝では明らかに野口の実力が勝っているかのように見えたが、決勝では逆転されてしまった。

そして男子リード、誰もが世界ランク３位の安間の金メダルを信じて疑わなかったであろう。しかし、挑

戦する立場のワールドカップと違い「勝つのがあたりまえ」という状況。これがプレッシャーになったのだろうか｡ルーフの抜け口部分をこなしきれずフォール｡最後に登場したミン・ヒュンビンはここを切り抜け、ルート最上部に達し優勝を決めた。　（記　北山　真）

■男子

リード		ボルダー	
1	ミン・ヒュンビン	1	清水　淳
2	安間　佐千	2	堀　創
3	パク・ジーワン	3	ミン・ヒュンビン
4	樋口　純裕		

■女子

リード		ボルダー	
1	キム・ジャイン	1	キム・ジャイン
2	ハン・セウラン	2	野口　啓代
3	小林　由佳	3	サ・ソル
		5	安田あとり

第26回リードジャパンカップ岐阜大会

６月９日、10日、岐阜市文化センターにおいて、第26回となるリードジャパンカップが開催された。秋の国体会場ともなる文化センターは、岐阜市の繁華街のまさにど真ん中、アクセスの良さから多くのギャラリーを向かえた。

日本代表選手、また９月の世界選手権の選手選考を兼ねるということで、すでに代表選手が決定している安間佐千、ボルダリングＷＣ参戦中の野口啓代、この２名を除くほぼすべての実力選手が岐阜に集結した。

決勝でタイムが採用されるということもあってか、男女とも予選、準決勝はやさしめの設定となった。男子予選はなんと20名が完登。女子予選も14名が完登した。

準決勝でも男子、女子とも決勝の定員である８名が完登。すべては決勝に委ねられることになった。

その決勝、打って変わって厳しいルートとなり、男子は中間部で力つきる選手がほとんどとなる中、樋口純裕と渡辺数馬がそこを抜け出し、トラバース部分に達した。しかしながら２人の落ちた場所は同じ。ルールにしたがい時間がチェックされ、24秒差で樋口の初優勝が決定した。

女子も予想通り世界レベルのふたり、小林由佳と小田桃花の一騎打ちとなったが、両名とも終了点直下でフォール、こちらもタイムが採用され、20秒の差で小田の優勝となった。

今回の結果であるが、セッター陣が決勝がタイムで決着できるから、予選、準決勝は「登らせるルート」としたのであれば、あきらかに間違った方向性であろう。一般選手は完登できる機会が多くなり、歓迎かもしれないが、トップ選手はたまらない。決勝でのタイム採用はあくまで「最後の手段」であるべきだ。予選はまだしも、８名完登の準決勝はあきらかに問題であろう。

また私見であるが、小林と小田の＋（ムーブの有効さ）にはわずかに違いがあった。タイムをあくまで「最後の手段」とするのであれば、このわずかな違いに差をつけるほうが、より本来のクライミングに基づいた判定ではないだろうか。　（記　北山　真）

■男子 リード 総合成績

1	樋口	純裕	佐賀県
2	渡辺	数馬	千葉県
3	笠原	大輔	長野県
4	羽鎌田直人		千葉県
5	中原	栄	岡山県
6	芝田	将基	栃木県
7	楢﨑	智亜	栃木県
8	小澤	信太	埼玉県

■女子 リード 総合成績

1	小田	桃花	山口県
2	小林	由佳	茨城県
3	田嶋あいか		三重県
4	尾上	彩	埼玉県
5	水口	僚	岐阜県
6	大田	理裟	山口県
7	飯田あづみ		千葉県
8	竹内	彩佳	千葉県

平成24年度国際委員総会、第31回海外登山遭難対策研究会報告

国際委員会の平成24年度総会ならびに第31回海外登山遭難対策研究会が神奈川県山岳連盟の主管により６月23日～24日にかけて箱根仙石原の神奈川大学箱根保養所で開催された。出席者は研究会のみの参加者を含めて46名。

委員総会は、佐藤光由委員長より平成23年度事業及び収支決算、平成24年度事業計画及び予算、ＵＩＡＡ ＭＣ会議･総会、ＵＡＡＡ総会などが報告された。次にモンゴルで開催されたＵＡＡＡ理事会（2011年６月17日～20日、９カ国20名参加）について八木原副会長から報告された。

委員総会の検討課題については各県参加者から以下について建設的な意見が交わされた。

⑴来年度以降の総会開催について
　東京開催・地方開催・研究会の同時開催等

⑵51回海外登山技術研究会について
　50年を振り返るアニバーサリー研究会とする。研究課題と公募方法（目標80人）等

⑶来年度からの研究課題について
　カテゴリー別の研究会（地域別・高さ別・難易度別等）・報告のみの研究会・活躍中のクライマーの招聘等

引き続き「神奈川県山岳連盟インド・ヒマラヤ登山隊の記録」について登山隊総隊長の川浦敏彦氏による遠征報告が行われた。

神奈川岳連創立60周年記念事業の一つ、高峰登山事業の第２次登山隊として、6000ｍ級３座の初登頂を目指したインド・ヒマラヤ登山隊は、インド北西部のヒマチャル・プラディッシュ州スピティ地区の6160峰、6181峰の初登頂に成功した。

７月19日に成田を出発した同隊は、高所順応を十分に行ってからキャラバンを開始してＢＣを建設。隊員の旺盛な登頂意欲とスピーディーな行動で初登頂を果たした。

登山隊の報告終了後、18時より今回のメインイベント？　夕食親睦会が行われた。各県参加者、常任委員の活発な意見交換会が深夜まで行われ有意義な１日は終わった。

２日目は９時より「海外登山遭難対策研究会」が行われた。群馬大学大学院医学系研究科麻酔神経科学分野教授・斉藤繁先生による「基礎からわかる高所医学」

の講演。

体と水分の関係、高所での呼吸と水分ロス、「登り」に必要なエネルギー、酸素ボンベを使用しないで8848ｍの頂きに登頂できる方法、エベレストの頂上では普通の呼吸では生きられない、低酸素による障害血栓症、低体温症及び凍傷への対処治療、日常の注意で良好な末梢循環、深酒喫煙は厳禁など２時間に及ぶ興味深い有意義な講話であった。

そして浅野勝己常任委員の司会による意見交換では、高山病予防薬のダイアモックス使用のタイミング、凍傷の予防と処置などについて活発な質疑応答が行われた。

続いて増本亮講師により「BMC International Winter Climbing Meet 2012」の報告が行われた。

１月23日～28日にスコットランドで開催されたこのクライマー交流会には日山協から長門敬明と増本亮の２名が派遣された。

ＢＭＣ（英国山岳評議会）が主催するこの国際クライマー交流会は、世界各国から２名ずつクライマーを招待し、共に登り、語り合うことで各国クライマーとの技術交流などを行い、さらには各国の山岳協会との繋がりを強固なものにし、アルパインクライミングを普及、発展させようというのが趣旨らしい。今回も総勢40名のゲストクライマーと、同等のホストクライマーが集まった。今回の経験をクライミングで実践し、発信することで、意識の共有を図り、アルパインクライミングの楽しみを少しでも伝えていきたいと語った。

このような国際交流をはじめ、地球規模のフィールドで各々の登攀スタイルを各々が実践して発信し、安全で慎重かつ攻撃的な海外登山活動のバックアップ体制も国際委員会の役割とも考えた研究会であった。

交通機関の乱れによる開始時間の遅れなどアクシデントもあったが、最後の増本講師の報告により２日間にわたる充実した内容の研究会となった。

（国際常任委員　菊池　稔）

平成23年度氷雪技術研修会報告

平成23年度氷雪技術研修会が大山、富士山の２ケ所で開催された。従来からの研修会と主任検定員養成講習会に加え、今年度からは上級指導員養成コースも実施されるようになった。氷雪技術の上級指導員養成コースを修了すると、上級指導員養成講習会の専門科目（積雪期）が免除される。併せて登攀技術研修会の上級指導員養成コースも修了すると、上級指導員養成講習会の全ての専門科目が免除される。

１.大　山

【日　程】　平成24年２月11日（土）～12日（日）

【参加者】　日山協スタッフ６名、主任検定員養成講習会参加者２名、上級指導員養成講習会参加者３名、研修会参加者16名、現地スタッフ５名の計32名。

○第１日目

受付終了後、モンベルショップの２階をお借りして開校式を行なった。鳥取山協・河合登会長よりご挨拶をいただいた後、主任検定員、上級指導員、研修に分かれ午前中は机上講習で終了。午後は近くの斜面に分かれ、それぞれ歩行技術やスタンディング・アックス・ビレイ等の実技を研修・講習した。夕食と情報交換会は近くに手配いただいた旅館で行ない、その後米子工業高校の小屋とＳＯＢの小屋に分宿。

○第２日目

時間が足らないため、時間を早めて集合。それぞれやり残した実技について研修・講習を行い、12時にモンベルショップに集合、講評などを行い13時過ぎ解散した。雪が多く、また天気にも恵まれ大変有意義な研修・講習になったと思う。

毎回のことであるが、地元・渡辺悟委員長を軸とする多くの皆さんに大変なご努力を、また河合会長には最後までお付き合いいただいた。この場をお借りして感謝を申し上げます。最後になるが、たまたま11日に発生した滑落事故の救助活動に木元康晴さんが、そして真栄佑介さんが夜遅くからの支援活動に参加された。お二人には大変お疲れ様でした。

（指導常任委員　瀧根正幹）

２.富士山

【日　程】　平成24年３月18日（日）～20日（火）

【参加者】　日山協スタッフ４名、主任検定員養成講習会参加者３名、上級指導員養成講習会参加者４名、研修会参加者４名の計15名。

○第１日目

富士山駅（旧富士吉田駅）に10時半に集合し、車で分乗して馬返しまで入る。小雨の降る中、佐藤小屋まで歩いて、その日は２グループに分かれて机上講習を行う

○第２日目

この日も研修会のグループと、主任検定員・上級指導員養成の２グループに別れ、主任・上級のグループでは、主任検定員養成講習会の受講者が講師となって上級指導員養成講習会の受講者を指導し、検定する形で実施した。

実技の内容としては、基本的なアイゼン・ワーク、ピッケルの持ち方から始まり、滑落停止、スタンディング・アックス・ビレイ、そして雪上支点構築など多岐に亘り、日山協のスタンダードの確認と指導法などを研修した。

○第３日目

最終日は全員一緒になって、雪上搬送法の研修を行った。シート搬送ではスリングを用いる方法（室内でデモ）とロープのみを用いる方法（雪上での実技）を学び、またレスキューネットを用いた担架搬送も学んだ。

（指導常任委員　瀧本　健）

レスキューネットによる搬送

シート搬送

2012国際山岳年プラス10 シンポジウム

「みんなで山を考えよう」開催

６月23日、24日の両日、本会などが協賛して「2012国際山岳年プラス10」シンポジウムが日本大学文理学部の会場で行われた。このシンポジウムは、2002年の「国際山岳年」から10年を経たところで日本の現状を検証し、その先の発展性を見通す、と云う事で開催された。呼びかけは「'02国際山岳年」の事業を引き継いだYAMA-NET-JAPANが02年の日本委員会に参画した各組織に行った。実行委員長は元国際山岳年日本委員会委員長の田部井淳子さん。

シンポジウムの初日は加藤直人・日大文理学部部長の歓迎の挨拶で始まり、田部井実行委員長の挨拶はビデオメッセージで流された。その後、コンラッド・オスターヴァルダー氏（国連大学学長）の挨拶があり、続いて元国際山岳年日本委員会事務局長の江本嘉伸氏がこれまでの経過を説明した。

セッションⅠは、「変化する社会と山岳住民の適応」のテーマで海外からのゲスト・スピーカー、ヘルマン・クロイツマン氏（ベルリン自由大学）が「ヒマラヤ、ヒンズークシュ、パミール、カラコルムにおける環境変化の適応」と題した基調講演を行った。続いて落合康浩氏（日大）の「パミール・カラコルム地域に居住する少数民族「ワヒ」の生活実態とその地域的差異」、白坂蕃氏（帝京大）の「中国雲南省西双版納における焼畑の変容―焼畑からゴム栽培―」、渡辺和之氏（立命館大）の「ネパール・ヒマラヤにおける山地社会の変化と羊飼いの現在」についてそれぞれ発表があった。

午後のセッションⅡは「ヒマラヤの氷河湖決壊洪水の脅威」がテーマで以下の発表があった。岩田修二氏（都立大名誉教授）の「ヒマラヤの氷河湖決壊洪水への日本の取組み」、小森次郎氏（帝京平成大）の「ブータンにおけるGLOF共同研究と技術移転の成果と今後の氷河災害問題」、檜垣大助氏（弘前大）の「ネパール、ブータンヒマラヤの自然地理的地域区分に対応した水・土砂災害リスクの軽減」、藁谷哲也氏（日大）の「カラコルムハイウェイを遮断した大規模崩壊と堰き止め湖」。中でも檜垣氏が発表した今年の５月５日に起こったアンナプルナⅣ峰西壁からの崩落によるセティ河泥流のカタストロフィー現象には驚かされた。時速200kmの泥流が僅か30分ほどで下流のカラパニの温泉地を飲み込み、大勢の観光客が犠牲になったという。また、2010年１月４日に起こったフンザ河右岸のアタバート崩壊の映像にも戦慄を覚えた。

２日目のセッションⅢでは、田口洋美氏（東北芸術工科大）が「震災後の東北のマタギと山の利用」と題した基調講演を行い、山村集落の世帯減少から戸数減少、伝統的なマタギの技術が伝承出来なくなっている現状などが報告された。

続いて和泉功氏（福島登高会）の「山の放射能と登山」、宮地忠幸氏（国士館大）の「東電福島第一原発事故に揺れる阿武隈高地の農村」、飯田肇氏（立山カルデラ砂防博物館）の「山の自然災害リスク―豪雨による災害」についてそれぞれ発表があった。

震災直後から福島県内の山の放射能を測定し続けてこられた和泉氏の発表では、吾妻山、安達太良山、磐梯山など奥羽山脈の山々は何れも放射能の線量は問題ない値なので、是非福島の山に出かけてもらいたいとのことであった。

午後のセッションⅣでは、「山と人と安全」がテーマで、村越真氏（静岡大）が「山岳遭難データの詳細分析から見えてくるもの」、山本正嘉氏（鹿屋体育大）が「中高年登山者の体力の弱点とその解決策」と題した基調講演をそれぞれ行った。

セッションⅤは、「山の自然保護―問題点とこれから」がテーマで、泉山茂之氏（信州大）の「ニホンジカは何故高山を目指すのか」、Ｔ．ジョーンズ氏（明大）の「自然公園における外国人利用者の現状と課題」、佐野充（富士学会・日大）の「富士山の観光登山と環境整備」、椎名宏子氏（都岳連）の「尾瀬の問題点とこれから」、穂刈康治氏（槍ケ岳観光（株））の「登山道の維持管理とトイレ改善のいま」、愛甲哲也氏（北大）の「自然公園における施設整備のあり方」についてそれぞれ発表があった。

泉山氏の「南アルプスでのシカ食害対策の失敗を北アルプスで繰り返してはならない。」との訴えや椎名氏の60年前の尾瀬ヶ原の写真などから、自然保護の重要性を再認識させられた。

最後にこのシンポジウムを牽引された渡辺悌二氏（北大）が将来に向けてのまとめを行い、成川隆顕氏「山の日」制定協議会）が「山の日をつくろう」をアピールして閉幕となった。

会場には２日間、「ヒマラヤ―変わりゆく景観―」と題した山岳写真のパネル展示もあり、カトマンズの街並みやヒマラヤの景観などの変貌振りには驚かされた。

（記　尾形好雄）

第44回 Mountain World

時代はトラバース？

池田常道

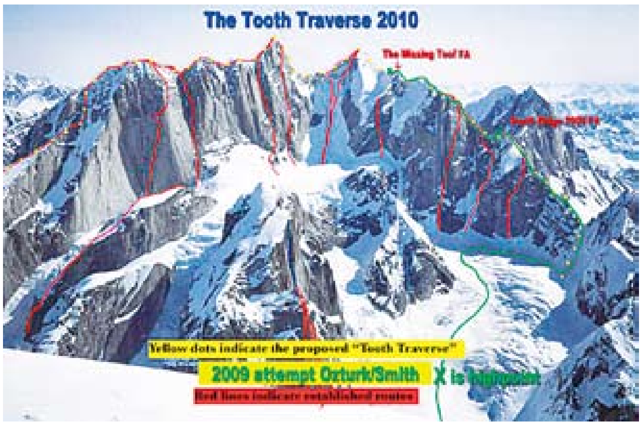
デナリ（マッキンリー、6194m）の東を流れるルース氷河は、標高こそ低いが技術的に困難な登攀を要求する岩峰群を多くもつことで知られる。マウント・ディッキー（2909m）やバリル（2332m）などは早くも1970年代に骨と皮同人や大阪かもしかクラブなどが試みているし、最近ではブロークン・トゥース（2758m）やベア・トゥース（3069m）、マウント・チャーチ（2509m）などで行われたGiri-Giri Boysら日本人グループの活躍も記憶に新しい。ムースズ・トゥース（3150m）を盟主とするこれらの岩峰群にはすでに何本ものルートが拓かれているが、それらの頂を結んで縦走しよう（トゥース・トラバース）という試みは長い間行われたことがなかった。

アメリカのリーナン・オズタークは2009年、ザック・スミス（米）とシュガー・トゥース（2438m）南稜を初登攀したあと、アイ・トゥースの頂を越えてベア・トゥースに続く稜線を途中まで踏破した。これで縦走の可能性を見た彼らは翌年、フレディ・ウィルキンソンを加えた３人でトラバースに挑んだ。エスプレッソ・ギャップからルース・ギャップまで５マイル（８km）の山稜を一気に踏破しようというのだ。

ＢＣに入った一行は、まず縦走中最大の障害となりそうなムースズ・トゥース南壁を試み、〈スワンプ・ドンキー・エクスプレス〉（750m、5.9+　A2+）を拓いて頂上に立った。既成ルート〈ハム・アンド・エッグス〉を懸垂下降してＢＣに帰り、５月28日、縦走に踏み出した。しかし、気温が高くて雪の状態が悪く、オズタークが墜落を喫した際に唯一のリードロープが岩角で損傷を受け、敗退した。

３人は昨年も縦走を計画したが、出発直前にオズタークがスキー事故で負傷。ことしはスミスが参加できず、オズタークとウィルキンソンだけがルース氷河へと飛んだ。今季のアラスカは冬の大雪があったために状態はよくなかった。デナリ（マッキンリー）を初めどの山も深い雪が登山者を悩ませ、宮城県労山隊などの雪崩事故も起こった。

５月17日に取り付いた２人は、岩と雪が交錯するシュガー・トゥース南稜でロックシューズと登山靴を頻繁に履き替えるなど時間を食われた末、２日目に〈タルキートナ・スタンダード〉（スティーブ・ハウス、2003年）を経てアイ・トゥースに登頂。ベア・トゥースへの稜線にある未踏の小ピークに立ってミッシング・トゥースと命名し、翌朝９時、ベア・トゥースに登った。ムースズ・トゥースとのコルへと懸垂下降し、稜線を外して〈スワンプ・ドンキー……〉を登り切ったときは23時になっていた。夜間も行動を続け、西峰に立ったところで日の出を迎えて小休止。そこから６時間で西の肩に達し、最後はあまり使われたことのないクーロワールからルース氷河に降り立った。



トゥース・トラバースの全景写真。2010年の計画時に公表されたショットで、画面中央の左がムースズ・トゥース、その右がベア・トゥース。縦走は右手のギャップから行われた。

アラスカのような大山岳で、岩峰から岩峰を結ぶ縦走はあまり例がない。必然的に行程が長く、悪天候に見舞われる危険性も高いからだ。最近の例では、2010年８月にコリン・ヘイリーとマイキー・シェラーが成功した「ディアブロ・トラバース」がある。ウィッチズ・ティッツ～キャッツイヤー・スパイアーズ～デヴィルズ・サムの縦走だ。またパタゴニアでは、2008年1月にローランド・ガリボッティとコリン・ヘイリーによって行われた「トーレ・トラバース」（セロ・シュタンハルト～トーレ・エガー～セロ・トーレ）と、同年２月にフレディ・ウィルキンソンとダナ・ドラモンドによって行われた「ケアベア・トラバース」（アグハ・ギヨーム～メルモス～フィッツロイ）が知られている。

いずれの場合も、稜線の側壁にいくつか既成ルートが刻まれているので、いざとなったらそこを下ればいいという条件がクライマーたちを長大な行程に踏み出させている。シャモニ針峰群をスケールアップしたようなこの手の縦走は、個々のピッチ・グレードはさほど高くなくとも、ひとつの壁を登るよりはるかに冒険的なクライミングを提供してくれることは疑いない。

日本の山岳切手シリーズ ⑨

「蒜山三座」

「蒜山(ひるぜん)」という固有の山は無い。「上蒜山(かみひるぜん)」(1123.3m)・「中蒜山(なかひるぜん)」(1123.3m)・「下蒜山(しもひるぜん)」(1100.3m)の三座がそれぞれ蒜山であり、山を主柱としての地域一帯が蒜山である。

岡山県の鳥取県との境の北天を限って聳えているのが蒜山火山の連峰である。山頂稜線に立って南面を俯瞰すると東西約20km、南北約10km、標高500mの広大な高原盆地が形成され、南に中国山脈の脊梁が約1,000mの高さで東から西へ壁をなしている。

盆地は太古洪積世前紀には一大湖水であったという証しに埋蔵量数千万トンという珪藻土が発掘生産されている。蒜山三座は南麓へ幾条もの放射谷を持ち、山裾には幾つもの複合扇状地形を造り、旭川の源流となる渓谷は流れ落ち集まり沖積し断層を為し河岸段丘をも造って、西から東へ水田を潤しながら蛇行している。

古来この独特な地形は積雪寒冷な気象と共に特異な動植物を育んできた。オオサンショウウオやカワシンジュガイ、ギフチョウやムカシトンボは今もその姿がある。植物もヒルゼンスゲ・コケモモ・イカリソウ・カタクリ・サギソウ・サクラソウそして氷河期からのミツガシワの自生など2,000種類にも及ぶという。蒜山の山と川に培われてきた生活は意義深い民族文化を今に受け継いでいる。

平成9年11月の初め全日本登山体育大会がこの蒜山を中心に行われた。犬挾(いぬばさり)峠から下蒜山へ登った一隊は湿地帯の木道から樹間を抜け、急登・緩斜面を繰り返しながらネザサ原の中を雲居平(乙女平)へ辿る。前日の寒気を暖めつつ蒜山原一面を雲海が覆っている。ジグザグの坂を攀じって雲の海の上へ出ると頂上である。一両日降った雪で真っ白に光った大山が彼方に望まれる。富士山の美景に慣れ親しんだ静岡からの山仲間もまた感動叫声して、絶好な眺めを提供してくれた。

中蒜山から上蒜山を縦走して槍が峰から百合原へ下って約10時間のコースである。

蒜山は岡山県を代表する山であり、自然の宝庫である。

(岡山県山岳連盟理事長　山本廣康)

お国自慢の山 ⑦

『両神山』について

秩父は「日本の地質学発祥の地」と言われ、大正5年9月盛岡高等農林学校2年の宮沢賢治が地質見学に訪れている。この秩父地域全域が、昨年9月にユネスコが世界へ提唱しているジオパーク＝地質学的に重要な地層や断層、火山など地球活動による大地の遺産を見どころとする自然公園＝として、日本ジオパーク委員会から加盟認定を受けた。このジオパークの西端に位置するのが両神山である。

放散虫が海底に堆積してできたチャートという硬い岩石からなる両神山は、かっての深海底が今は急峻な稜線となっている。最近の地質学の研究によると、この山は2億年～1億5千万年の歳月をかけて数千キロ離れた南方からプレートに乗って旅をしてきた末にこの西秩父の山に落ち着いたものだと言う。

ふるさと秩父をこよなく愛し、地方から中央へ情報を発信し続けてきた山岳写真家であり、郷土史家の清水武甲(平成7年没)さんは、その著書の中で「秩父の山々は北アルプスや南アルプスの山に比較して山容が余りにも女性的であって弱々しい。その女性的で弱々しい奥秩父の山のうち盆地の西域に位置する両神山はその山貌が猛々しく秩父の山には珍しい山容を見せている。」と言っている。

関東平野の随所から見ることができる鋸状の特異な山容は、『筑波嶺(つくばね)をはるかへだてて八日見し妻恋ひかねる小鹿野の原』と詠われているように、日本武尊(やまとたけるのみこと)が東征の折り、筑波より八日の間この山が見え続けたことから八日見山(ようかみやま)の別名もある。

山岳信仰の一山であり登山道脇には多くの祠や石

像・石仏が残されている。修験の場所として江戸時代には行者の往来も多く、また三峯山とともにオイヌさま信仰が盛んで関東一円を初め信州にも御眷属講中がある。

登山適期は、ヤマツツジ、ヤシオツツジ、ニリンソウの咲き誇る春、コノハズク（仏法僧）の声を聞きながら避難小屋で初夏の一夜を過ごすのも良く、秋の紅葉も素晴らしい。

昭和42年 に埼玉国体、平成18年にはインターハイの会場となり多くの登山者を迎えた。昭和55年には皇太子殿下が御登山されている。

（小鹿野山岳会　柳原政一）

駐日ネパール大使昼食会

５月30日に都内のホテルで駐日ネパール大使のDr.マダン・クマール・バッタライ氏を囲む昼食会が開かれた。

この日の催しは、来年エベレスト（ネパール名サガルマータ）初登頂60周年を迎えるので、それを機に日本とネパールが協力して「大ネパール展」のような催しを日本で開催して、以前のように多くの日本人にネパールを訪れて貰いたい、との大使の意向で山岳関係者や旅行代理店関係者に呼びかけられた。

当日は、日本山岳会から尾上昇、西村政晃、今田明子、日本勤労者山岳連盟から西本武志、川嶋高志、日本山岳ガイド協会から磯野剛太、HAT-Jから田部井淳子、日本ヒマラヤ協会から伊東満、日ネ協会から小嶋光昭、アルパインツアーサービスから黒川惠、芹澤健一、久保典彦、ヒマラヤ観光開発から井本重喜、ウェックトレックから古野淳、アトラストレックから早川晃生の各氏、そして本会からは神﨑会長と尾形が出席した。

その後、この昼食会の答礼として６月26日には中目黒大使公邸で、バッタライ大使主催の晩餐会が開かれた。晩餐会には前述の昼食会に参加された山岳関係者や旅行代理店関係者のほかネパールから来日された観光業者や役人及び在日ネパール人など大勢参集され交流を深めた。

（記　尾形好雄）

平成24年度中高年安全登山指導者講習会
「東部地区」参加者募集中！

東海ブロック以北を対象とする「東部地区」の標記講習会を以下の通り開催します。

期　日　　平成24年９月21日（金）～23日（日）
開催地　　白山山麓及び「白山国立公園センター」
（石川県白山市白峰ツ57乙）
宿泊所　　白峰温泉「御前荘」
（白山市白峰ツ112-3-3、電話：076-259-2224）
定　員　　50名程度
参加費　　22,000円（宿泊、食費、バス代他）

申込み締め切り：７月31日（火）
申込み・問い合わせ：日山協事務局まで
http://www.jma-sangaku.or.jp/
TEL：03-3481-2396

JMA　平成24年度６月（24年６月）常務理事会議事録

日　時　平成24年６月14日㈭
17：30～20：50
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者　神﨑会長、内藤副会長、八木原副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、石倉、高山、水島、相良、谷口、寺内、永井各常務理事
委　任　國松副会長、仙石、佐藤、北山、堀井常務理事
（18名中13名出席）

1.専門委員会動静
５月常務理事会以降
（５月11日～６月13日）
［報　告］
⑴遭難対策委員会
５月12日㈯～13日㈰
出席者14名
ア　委員会活動の充実と運営の効率化について
・スカイプ使用の環境整備
・委員会専用のＨＰ活用とメーリングリストの整備
イ　日山協の公益社団法人化について
・組織体系の変更や理事数の変更に伴う委員会の運営
ウ　公益社団法人化に向けて行うべきことについて
・フリー議論を行う
エ　遭難事故の防止・安全登山の推進について
オ　事故から学ぶものを活かそう
・ＧＷの遭難事故の発生原因についてフリー議論を行う
カ　組織の若返りについて
キ　平成24年度の事業計画につい

て
ク　遭難対策委員会規則について
⑵自然保護委員会
　5月15日㈫　出席者15名
ア　4月常任委員会議事録の確認
イ　5月常務理事会の報告
ウ　山岳団体自然環境連絡会の報告
エ　自然公園指導員活動報告
オ　コカ・コーラ、グリーンバード第1回クリーンハイク（筑波山）について
カ　常任委員会の体制について
キ　委員総会（北海道大会）の開催要項検討
ク　クリーン活動（コカ・コーラなど）の受け入れ継続について
ケ　常任委員研修会の計画書について
コ　自然保護指導員の減少対策の検討
サ　「山はみんなの宝」憲章への賛同について
シ　ブナハバチ調査報告について
⑶競技委員会
　5月17日㈭　出席者13名
ア　5月常務理事会の報告
・平成23年度C級クライミング審判員合格者
・平成23年度競技運営員認定者
・平成23年度クライミング審判員（S、A、B級）一覧
・山岳競技規則集の改訂について
・競技施設認定の改訂について
（施設業務委託仕様書の内容を検討し、各都道府県に配布する。）
イ　リード・ジャパンカップ岐阜大会について
ウ　JOCジュニアオリンピックカップ大会について
エ　2012WC印西大会の進捗状況について
・第2回実行委員会（7/3）
・印西市市長表敬（5/14）
オ　第7回山岳スキー日本選手権大会の報告
カ　競技委員会及び都道府県競技委員メーリングリストについて
・管理人：佐藤、西原、高山、坂上、目次、山本
キ　後催県の準備状況について
ク　平成25年度ボルダリング・ジャパンカップについて
・山口県での開催要望について
ケ　第74回（平成31年）～77回（平成34年）国体山岳競技の毎年実施が決定
コ　ブロック研修会の内容見直しについて
サ　アイス・クライミングの今後の検討
⑷ジュニア・普及委員会
　5月25日㈮　出席者4名
ア　中高年安全登山指導者講習会について
・25年度の開催地依頼（東部地区：愛知、西部地区：熊本）
・西部地区（愛媛）の講習内容と現地調査実施
・金田講師の講習内容について
イ　ジュニア登山教室in立山の準備状況について
・現地打合せ（6/4~5、本木、西内）
・ポスター、チラシの配布
ウ　少年少女登山教室（各岳連主催行事）アンケート内容について
エ　個人会員アンケート内容について
⑸広報委員会
　5月25日㈮　出席者4名
ア　『登山月報』6月号編集内容について
・平成24年度理事会報告
・平成24年度通常総会報告
・西蔵登山協会訪日団歓迎会報告
・UIAA登山委員会報告
・Mountain World
・日本の山岳切手シリーズ⑧
・お国の自慢の山⑥
・JMA
・告知：ジュニア登山教室、自然保護委員総会
イ　国内山岳団体の現状と課題についての取材記事
ウ　行事・計画の早取りコーナーについて
エ　PCによるテレビ会議の検討について
⑹指導委員会
　6月4日㈪　出席者11名
ア　5月常任委員会議事録確認
イ　公認スポーツ指導者育成事業担当者会議報告
ウ　資格再登録申請について
・10名を日体協に申請した
エ　規約改訂について（2校まで済み）
オ　B級主任検定員の補講について
カ　委員総会の準備について
キ　登攀技術研修会について
・10/13～14、三重
ク　公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦について
・加藤正之（三重）、北村憲彦（愛知）、山本一夫（大阪）
ケ　SC養成講習会の申込み状況について
コ　AC指導員の認定承認について
・京都6名（報告・認定承認を参照）
サ　義務研修実施申請について
⑺選手強化委員会
　6月11日㈪　出席者4名
ア　ユース代表について
・アジアユース選手権大会（7/9-11、イラン）
男子ジュニア：一宮大介（大分）ユースA：高田知尭（鳥取）女子ジュニア：水口僚（岐阜）ユースB：大場美和（愛知）
・世界ユース選手権大会（世界選手権シンガポール大会（8/29-9/1）
男子ジュニア：村井隆一（千葉）ユースA：是永敬一郎（埼玉）、清水裕登（大阪）、楢崎智亜（栃木）、ユー

四川省の遥か西・横断山脈の知られざる美しい山群へ
麗峰ヤンマイヨン・ハイキング、コンガ雪山・三神山展望　10日間
発着地　東京・大阪・名古屋・福岡
出発日　10月8日（月）・10月21日（日）
旅行代金　¥276,000～¥296,000
※燃油サーチャージ（2012年6月13日現在：目安約9,000円～13,000円）が別途必要です。
観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員　ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

詳しくは ➡ www.jma-sangaku.or.jp

お問い合わせは

日本山岳協会山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター

月～金　10:00～17:00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397

E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

スB：津守貴斗（山口）、野村真一郎（茨城）、飯田譲（千葉）、女子ジュニア：小田桃花（山口）、大田理裟（山口）、水口僚（岐阜）
ユースA：竹内彩佳（千葉）、坂井絢音（埼玉）、尾上彩（埼玉）、ユースB：田嶋あいか（三重）、義村萌（三重）、大植麻亜耶（兵庫）
スタッフ：小日向徹、木村伸介、安井博志、西谷善子　20名
イ　リード日本代表選手（W－cup大会出場資格※印西大会以外）について
・男子＝安間佐千（栃木）、松島暁人（東京）、樋口純裕（佐賀）、渡辺数馬（千葉）、笠原大輔（長野）、羽鎌田直人（千葉）、中原栄（岡山）、柴田将基（栃木）、楢崎智亜（栃木）、小澤信太（埼玉）、是永敬一郎（埼玉）、藤井快（愛知）、尾形和俊（長崎）、沼尻拓磨（茨城）、杉本玲（北海道）
・女子＝小田桃花（山口）、野口啓代（茨城）、小林由佳（茨城）、尾上彩（埼玉）、水口僚（岐阜）、大田理裟（山口）、飯田あずみ（千葉）、竹内彩佳（千葉）、遠藤由加（神奈川）、榊原裕子（千葉）
ウ　世界選手権大会派遣メンバー（9/12-16、パリ）について
・ボルダー：女子＝野口啓代、男子＝堀創、清水敦、杉本玲、新田龍海、小澤信太
・リード：女子＝小田桃花、小林由佳　男子＝安間佐千、松島暁人、樋口純裕、渡辺数馬
エ　印西W－cup大会代表について
・男子＝安間佐千、松島暁人、樋口純裕、渡辺数馬、笠原大輔、羽鎌田直人、中原栄、柴田将基、楢崎智亜、小澤信太
・女子＝小田桃花、野口啓代、小林由佳、尾上彩、水口僚、大田理裟、飯田あずみ、竹内彩佳、遠藤由加、榊原裕子
⑻国際委員会
6月12日㈫　出席者11名
ア　国際委員総会・海外登山遭難対策研究会の準備
イ　平成25年度の委員総会・海外登山遭難対策研究会について
・研究会を重視した開催について検討
ウ　海外登山技術研究会について
・内容、講師等について検討

2.その他の重要事項

（5月11日～6月13日）

［報　告］

⑴遭難対策常任委員研修会
5月12日㈯～13日㈰　於：上尾市スポーツ研修センター　西内常務理事
⑵印西市市長表敬
5月14日㈪　於：印西市役所　神﨑会長
⑶日本山岳ガイド協会通常総会懇親会
5月15日㈫　於：弘済会館「萩」　永井常務理事
⑷西蔵登山協会訪日代表団歓迎会
5月16日㈬　於：プラザエフ　神﨑会長、佐藤常務理事、笹生、大宮常任委員
⑸故田中槇子（田中文男前会長令夫人）様通夜・告別式
5月16日㈬～17日㈭　於：セレモニー上尾ホール　神﨑会長ほか
⑹故槇適子（槇有恒元会長令夫人）様通夜・告別式
5月16日㈬～17日㈭　於：湘和礼殯館西久保
⑺第74回～第77回国体山岳競技の毎年実施決定の通知着信
⑻平成24年度理事会
5月19日㈯　於：岸記念体育会館　神﨑会長ほか
⑼平成24年度通常総会
5月20日㈰　於：岸記念体育会館　神﨑会長ほか
⑽スポーツクライミング記者発表
5月21日㈪　於：岸記念体育会館　尾形専務理事、中川事務局員
⑾東京都山岳連盟第12回通常総会
5月22日㈫　於：国立オリンピック記念青少年センター　神﨑会長
⑿明治大学体育会山岳部創部90周年記念祝賀会
5月26日㈯　於：明治大学リバティタワー23F　神﨑会長、尾形専務理事
⒀駐日ネパール大使昼食会
5月30日㈬　於：南園（京王プラザホテル）　神﨑会長、尾形専務理事
⒁日体協競技団体評議員連合会総会

寄贈図書

寄贈本	河北新報出版センター	『中高年のための安全登山のすすめ』
	山と溪谷社	『よくわかる新田次郎』
	大韓山岳聯盟	『KOREAN MOUNTAINEERING ANNUAL 2012』
雑誌	東京新聞出版部	『岳人』№781 7月号
	山と溪谷社	『山と溪谷』№927 7月号
会報	日本山岳会	『草の目 木の目』第98号
	もんたにゅ会	『思い出の山々』（最終号）
	（公財）健康・体力づくり事業財団	『健康づくり』№410
	埼玉県山岳連盟	『埼玉岳連』第42号
	全日本ボーリング協会	『JBCnews』第487号 6/1
	日本武術太極拳連盟	『武術太極拳』2012.6.10 №272
	Korean Alpine Club	『山』№224
	長野県山岳協会	『やまなみ』№205
	神奈川県山岳連盟	『ときわ木』157号 2012夏
	モンベル	『OUTWARD』№56
	日本勤労者山岳連盟	『登山時報』№449
	岩手県山岳協会	『山のたより』第47号
	大韓山岳聯盟	『大山聯』Vol.162
	（公財）日本山岳会	『山』№805
	やまびこ山想会	『やまびこ』第142号
	東京野歩路会	『山嶺』№988
	日本ヒマラヤ協会	『HIMALAYA』№461
	（公財）日本体育協会	『スポーツニュース・フェアプレイニュース』6月18日号
	山と溪谷社	『日本山岳遺産基金通信』№003
	日本山岳写真家協会	『日本山岳写真家協会ニュース』第388号
	愛知県山岳連盟	『愛知岳連ニュース』第398号

５月31日㈭　於：岸記念体育会館　尾形専務理事
⒂第３回アジアンビーチゲームズ監督会議
５月31日㈭　於：岸記念体育会館　北山常務理事、中川事務局員
⒃公認スポーツ指導者育成事業担当者会議
５月31日㈭～６月１日㈮　於：品川プリンスホテル　蛭田、滝本、石原常任委員
⒄山岳団体自然環境連絡会
６月１日㈮　於：労山　石倉常務理事、松隈、徳永常任委員
⒅平成24年度スポーツ振興事業助成に係る交付式
６月７日㈭　於：品川グランドタワー３Ｆ　尾形専務理事
⒆平成24年度第１回ＪＯＣ総務委員会総会
６月７日㈭　於：岸記念体育会館　小野寺事務局員
⒇故二塚謙三参与（山梨）告別式
６月８日㈮
(21) 八海醸造（株）往訪
６月８日㈮　於：南魚沼市　尾形専務理事
(22) 岐阜国体第２回基準会議
６月８日㈮　於：岐阜市　内藤副会長、高山、北山、寺内常務理事
(23) 第26回リードジャパンカップ（岐阜国体リハーサル大会）
６月９日㈯～10日㈰　於：岐阜市　内藤副会長、高山、北山、寺内常務理事、中川事務局員
(24) 平成24年度指導委員総会
６月９日㈯～10日㈰　於：東京・晴海　八木原副会長、永井常務理事
(25) 平成24年度山岳遭難対策中央協議会幹事会（第１回）
６月12日㈫　於：文部科学省　西内常務理事、中川事務局員
(26) 神奈川県山岳連盟名誉会長（本会元理事）山本芳夫氏逝去
６月12日㈫

３.議　事

⑴平成24年度５月常務理事会議事録の承認について（承認）
⑵平成24年度理事会議事録の承認について（承認）
⑶平成24年度通常総会議事録の承認について（承認）
⑷参与（個人賛助会員）の承認について（関孝治氏（福井）を承認）
⑸山岳遭難・捜索保険の自動継続制度導入について（保留）
⑹ＩＴビデオ会議の提案について（提案通り承認）
⑺2012国際山岳年プラス10シンポジウムについて（提案通り承認）
⑻国体功労者表彰対象者の推薦について（該当者なし）
⑼公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦について
（加藤正之、北村憲彦、山本一夫の３氏を承認、次年度以降本会の表彰者から推薦）
⑽ジュニア登山教室についてのアンケートについて（承認）
⑾個人会員制度についてのアンケートについて（一部削除して承認）
⑿平成24年各専門委員会常任委員について（速やかな推薦を依頼）
⒀第３回アジアンビーチゲームズ派遣選手団について（承認）
⒁アジアユース選手権派遣選手団について（承認）
⒂2012世界選手権派遣選手団について（承認）
⒃報告事項
ア　会計月次報告
イ　平成24年度全国山岳遭難対策協議会について
ウ　「山はみんなの宝」憲章（案）の賛同について
エ　文部科学大臣スポーツ功労表彰について
オ　ぎふ国体リハーサル大会の報告
カ　コカ・コーラ、クリーンハイクの報告
キ　尾瀬管理費問題について環境省との意見交換報告

４.後援、協賛等の依頼について

⑴「有明そらスタジオ」後援名義申請について（承認）

５.報　告

⑴指導員の認定承認
①アルパイン指導員
酒井寛太、酒井玄、吉村雅、松井洋司、堀島かおり、尾松建二（以上、京都６名）（以上承認）

編集後記

７月１日富士山、谷川岳、月山、岩手山、白山、石鎚山など各地で山開きが行われ、夏山シーズンが到来した。古来霊山では、登山は宗教的行事で普段禁じられ、夏の一定期間だけ解放された。その年初めて入山出来る日のことを山開きといい、現在ではスポーツとしての登山の開始期が山開きとなっている。今年も山の神に夏山登山の安全を祈願したい。

（広報担当　水島彰治）

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252−0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545−1
TEL 042-687−4011　FAX 042-687−3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ヶ岳山荘　TEL：090−2252−3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL：042−787−2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL：042−687−2882
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252−0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545−1
TEL 042-687−4011　FAX 042-687−3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦ 陣馬山トレイルレース実行委員会
◦ 上野原トレイルレース実行委員会
◦ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

登山月報　第520号
定　価　100円（送料別）
予約年間 1,200円送料共
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月１回15日発行）
発行日　平成24年７月15日
発行者　東京都渋谷区神南１の１の１
岸記念体育会館内
社団法人日本山岳協会
電　話　03－3481－2396
ＦＡＸ　03－3481－2395